

医療を考える会

NPO医療を考える会発行 平成18年8月19日
事務所 渋谷区代々木2-24-7代々木グリーンハイム210号
TEL 03-0000-0000 FAX 03-3299-5275

ご挨拶

NPO医療を考える会理事長
相葉計佳

六月二五日「NPO医療を考える会」発足の集いが、渋谷区千駄ヶ谷区民館にて行われ、八〇名を超える方々が参加され、よりよい医療を患者の声でつくりだそうという熱気にあふれ、医療を考える会にふさわしい集いとなりました。ご参加のみなさまにこころより感謝いたします。

この発足の集いでは、鉄砲洲診療所の沖山先生に講演をお願いいたしましたが、その他、筑波大学名誉教授浅田先生、歯科医師の高津先生はじめ、多数の方々から医療保険の改善つき、熱心なご発言があり、今後の会の活動に活かしていきたいと考えております。NPO医療を考える会は、1月末日で東京都の認可あり歩き始めたところですが、10月からは新年度の活動となります(6月25日講演する沖山先生)



すので、総会を開催し本格的な活動に入りたいと考えております。今後とも皆さまのご協力をお願いいたします。

西洋医学と 東洋医学の実践から

(鉄砲洲診療所長 沖山先生の講演要旨、松尾洋子)

鉄砲洲診療所の先輩である木下繁太郎医師は、患者に役立つ医療は偏見なく取り入れていました。漢方治療、鍼灸治療などいろいろな治療を率先して行い普及にも努めていました。

職業性労災の過労による病気が多発していた高度成長期は、多くの労働者が長時間加重労働に追い立てられていました。その中でタイピスト病、キーパンチャー病の患者さんが沢山いましたが、はじめは肩凝り、腕の痛み、しびれ等で整形外科にいても、検査をしても異常はない、「気のせいではとか」「あなたの生活が悪いのでは」と片付けられて理解されませんでした。

しかし東洋医学的に見るとしっかり診断できるので、労災病として認めるべきだと訴え最終的に、整形外科疾患の頸肩腕症候群を職業病性頸肩腕障害として認めさせ、その治療の中にはっきりと鍼灸治療が明記されるようになりました。

これと対照的な疾患が羽田で多発していた腰痛症です。職業性腰痛症として認められていたが、治療の中に鍼灸治療が入って

いなかった、どこに問題があるか問われます。

現在漢方薬は 160 種が保険適用で使われています。漢方の基本は食用です。人の身体は飢餓に耐えるように進化してきましたが、最近の日本の状況は逆に、食べ物が過剰になってきており、この事が病気の原因になっています。

子供の病気によく使う漢方薬に柴胡清肝湯があります。これを使う証は、お腹をさわるとくすぐったがり逃げようとするような子供に用います。これで喘息が治まることがよくあります。そのような子供が少し大きくなると荊芥蓮翹湯に処方が変わります。また別の症状が加わると竜胆瀉肝湯にかわります。

もともと漢方は女性に優位な治療法といわれています。女性のための手軽な自己診断法で、於血についてです。まず手の平の色で判断できます。手のひらが赤いと於血の傾向です。舌の色が紫色っぽいのも於血の傾向です。また、臍部の周りを押すとズンとひびくのも於血のひとつですし、足に静脈瘤ができているのも於血です。於血とは古血が滞るといことです。

現在はメタポリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に対し運動食事療法が中心だが、漢方の未病を治すという考え方で、漢方を使って評価すると面白い結果がでるのではないかと思う。高齢のかたによく使う漢方で、癌にもうつ病のときにも使うのも補中益気湯です。漢方の考え方の元気の出る源は食べ物にある。そのためまず消化機能の働きを活発にすること、その働きを補い元気をつけるのが補中益気湯です。

別名を医王湯という、癌のときは補中益気湯とか十全大補湯をつかいます。明治時代の政府の富国強兵政策により、医学は最終的にドイツ医学を取り入れた。完全に日本の漢方、鍼灸等の医学が無視され、戦後

アメリカも漢方等を許可しなかった。保険制度が始まった時も西洋医学オンリーとなった。

1977年 WHO は「伝統医学の振興と発展に関する会議」開き伝統医学を重視しようという形に変わってきている。

1967年に保険で使える漢方薬は4種類だったが、現在は 160 種類に増えている。医科大学に漢方の講座ができるようになり、鍼灸もはじまっている。今の学生達も鍼灸に関心があるとのアンケートがでているようです。

補完代替医療とは西洋医学以外の医療の総称です。各国の伝統医療、民間療法等を国民、患者さんが困っている治療にもっと活かすべきではないかという考えが国際的な流れのようです。統合医療はライフスタイルの全ての面を含み、身体、心、精神のすべてを考慮した治療を指向する医療である。



まず患者中心の医療で患者さんから学べる
ということですが。

世界的に近代西洋医学と伝統医学が一緒
にやってゆこうという大きな波がおきてい
る。以前漢方を保険適用からはずせという
動きがあった時、沢山の署名を集め、漢方



(発言する高津歯科医師)

を飲んで良くなったという患者さんの声で
ストップできたが、またいつ再燃するかわ
からない。

すでにビタミンの保険はずし、湿布を保
険からはずす、風邪薬は薬局でというこ
とがいられている。

良い治療を受けたければ、自分でお金
を払って受けて下さい、保険ではここま
でできませんと、すでに準備がすすんで
います。これからの医療の問題は厳しい
が、今日の集まりのような考え方が沢
山増えてくる中で、新しい21世紀の
西洋医学と伝統医学の良いところを
取り入れた、本当に国民の治療、保
険、予防を考えた活動が広がって
いくのではないのでしょうか。

「健康一口メモ」夏バテ予防

- ① いい汗をかく。
蒸し暑い日、私達は皮膚から汗を出すことで、体温を一定に保ちサツ
パリとします。一日のうち、涼しい時間帯に適度な運動をしましょう。
- ② 水分補給は適宜に。
冷たい飲食物の取りすぎに注意。冷たいものを取り過ぎますと、新陳
代謝が落ちていい汗も出ず、からだに汚れた血液や水分が停滞して、
からだのだるさや重さを感じます。また、からだの中が冷えすぎます
と、消化液は薄まり、消化・吸収力が落ちてきます。
- ③ 冷房に当たり過ぎない。
からだの外から冷やし過ぎても健康的な汗は出ません。血液循環も不
活発となり、秋・冬に体調をくずし易くなります。むしろ自然を利用
して部屋の風通しをよくしたり、強い日差しにすだれを用いたり、打
ち水をする、木陰を利用するなど行いましょう。
- ④ 高齢の方や体力のない人は、炎天下は無理をしない。やむを得ず出かけ
る時は、帽子や日傘を忘れない。
- ⑤ 疲れを持ちこさない。睡眠を十分取り、寝不足は昼寝等で補いましょう。
- ⑥ 食物は旬のものをバランスよく。腹7〜8分目としましょう。
- ⑦ 入浴は、ぬるめのお湯で疲れとりを。
- ⑧ 夏を快適にくらすのに、古くから用いられている「穴」を使ってみましょう。
足の「三里穴」や「三陰交穴」も、胃腸の働きや循環を活発にする穴として
有効です。

(田中栄子記)